

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (49)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

今回も America First. で good / bad の two-valued (2 値的) で簡素な Trump 氏の tweets を見ていく。メキシコとの国境の壁建設は 2020 年の大統領再選へ向け Trump 氏がどうしても成し遂げたい懸案であった。今回は (1) でこれと関わる tweet を、そして (2) では貴重なスペイン語翻訳版と対照もする (スペイン語翻訳版は Trump 氏が退任後はネット上ですべて削除され現在は閲覧できないが、英語版は公文書として残されていて現在もすべて閲覧できる)。今回も 2 例とも最初に日本語で内容を示す。

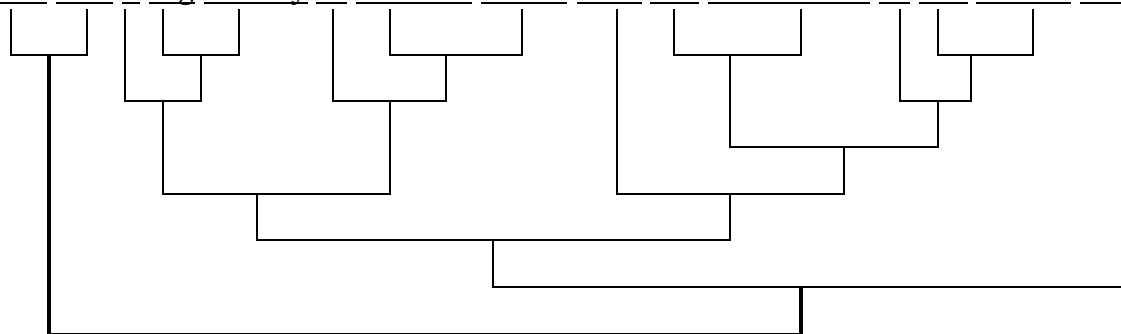
(1) 「どうしても必要な国境の壁問題で反対する下院の民主党議員が控訴していたが、たった今、連邦裁判所が却下したのでわれわれの大勝利だ、これでしかるべき方向に進んでいる、壁は建設中だ！」。

— この ‘good’ の思いを伝える Trump 氏の tweet が次のように encode 化された。
Just had a big victory in Federal Court over the Democrats in the House on the desperately needed Border Wall. A big step in the right direction. Wall is under construction ! (June 4, 2019)

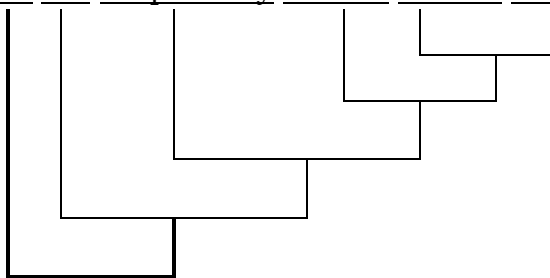
▲略されているが、振り出し語が We ということになる。Federal Court と Wall の前の冠詞 the の省略は原文どおり。各々「連邦裁判」、「壁建設」の意味と考えればよからう。

最初の文では had a victory ... over (～に勝った) が核になる。このあたりを確認するため本連載(12)、(27)、(45)で見た構造主義言語学(structural linguistics)での IC 分析(Immediate Constituent Analysis : 直接構成素分析)風に提示してみる。

Just had a big victory in Federal Court over the Democrats in the House on ...



... on the desperately needed Border Wall.



なお、上で注目した空間詞 **over** に関し付け加えておくが、日本人はこの語の広範囲な使い方にどうしても慣れる必要がある。たとえば「～をしながら」などの「従事」の意味で用いる **over** も、もっとサラリと使えるようになるとよい。「私は彼らが外で何をしているのだろうかと考えながらここにいた」を Basic 文でなら I was here over the thought of what they were doing out there.などと **over** を用いて言える。

上でも言ったが下線とした **Federal Court** は the が付けば「連邦裁判所」という建物の感じが前面に出るが、ここでは無冠詞（ ϕ 冠詞）で「連邦裁判」の意味と考えればよい。また **Wall** も ϕ 冠詞で抽象化された「壁建設」の意味が前面に出る。

[以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2言語対照]

今回もこの Trump 氏の 5 年以上前の英文 tweet とスペイン語翻訳版を対照するが、

2 言語双方から同系語を確認することでさらに理解が深まることになる。

Good news : Toyota and Mazda announce giant new Huntsville, Alabama, plant which will produce over 300,000 cars and SUV's a year and employ 4,000 people. Companies are coming back to the U.S. in a big way.

Congratulations, Alabama ! (January 10, 2018)

cf. Buenas noticias : Toyota y Mazda anuncian nueva planta gigante en Huntsville, Alabama que producirá 30,000 autos y SUV al año y dará empleo 4,000 personas. Las compañías vuelven a los EE. UU. en gran forma. ¡ Felicidades, Alabama ! (enero 10, 2018)

▲Good news の後ろで、Toyota and Mazda が振り出し語となっている。この 2 企業の発表ということで、この場合はアメリカでの工場建設であり、そうなれば場所、製造品、台数、雇用人数が一般的な提示となる。この流れで英語文・スペイン語文になっている。なお、ここでは英文・スペイン文の各々 1 行目に a giant new ..., una nueva ... と冠詞を入れるべきところであるが、原文のままとしておいた。

太線の Basic 語 **plant** は本連載(19)の(2)ですでに触れはしたが、Basic で「工場」の意味で用いてよい。鉄工場を iron works、ガラス工場を glass works などとも言うが、works でなくて plant でもよい。plant は「植物」の意味にもなるが、元の印欧祖語 PIE の語根音素形 etymon は/PELs/とされていて、原義は「平らであること」である。工場も植物も平らな立地条件のもとで建てられたり、植えられたりする。

Basic 語 **plane, plate, place, please, pleasure**、さらに初頭子音の[p]が[f]となった **flat, field, floor, feeling** も同系である。please, pleasure など喜ばせることも平たくすることである。プラス α Basic 語では「平面図、計画」の意味の **plan** も同系であるし、**plain, explanation, piano** などもしっかり。**piano** はフラット(変音)とも関わっている。また un-Basic 語 explain(説明する)、plaza(広場)、palm(手のひら)、plateau(高原・台地)、flake(薄片・フレーク)、flatter(お世辞を言う)なども同系。explain は「平たく言うこと」である。手のひらの palm で触って感じるものが feeling でもある。他に例はいくつもある〔同上拙著、第二部、例(29)参照〕。

cf. のスペイン語 noticia, anuncian (< anunciar), nueva, planta, gigante, producirá (< producir), auto, empleo, persona, compañía, gran, forma は各々、英語の **news, announce, new, plant, giant, produce(n.), automobile, employment, person, company, great, form** と対応する。英語・スペイン語の違いを超えルーツは互いに同系(太字体は Basic 語、イタリック体はプラス α Basic 語)。

この(2)の tweet 中に Companies are coming back to the U.S. in a big way. という文がある。上の(1)で触れた 1 語(1 単位語)ずつをつないでいく逆さ読み式 pattern practice の方法からすればこれは、way → big way → a big way → in a big way → the U.S. in a big way → to the U.S. in a big way → back to the U.S. in a big way → coming back to the U.S. in a big way → are coming back to the U.S. in a big way ⇒ Companies are coming back to the U.S. in a big way. となる。この反復繰り返しは文が脳に深く根を下すはずで、前からの反復繰り返しに比べはるかに実感がもてるようになる。こういうものを reverse sentence pattern practice (逆さ文型練習 : R-SPP) と特別にここで呼んでおこう。統語的 1 単位(unit)語ずつはさらに本連載で見ている MSOE スクリーン上での 5 つの意味的 1 項(chunk)単位(3 ± α 語)とも結びつくが、基本的にはこの意味項単位に基づく逆さ読みがよいはずだろう。

なお、Companies are coming back to the U.S. in a big way. Congratulations, Alabama! は音声上で弱音系と強音系の語の織り成す英語に特徴的なリズム・呼吸法となって表出する。すべて音声記号で示せば['kʌmpənəz ər 'kʌməŋ bæŋ tə ðə jə'naitəd steits ən ə big wei kəŋgrætjə'leɪfənz ələ'bæmə]のようになるが、弱母音[ə]は[i]とは厳密な違いはあるが基本的には中立な schwa 音 (neutral vowel) [ə]となり文中で支配的に低音程で流れ、日本語民族の聴覚にはこもって聞こえることとなる。

この中舌中央母音 schwa 音[ə]の世界に存分に入り込まないかぎり英音全般に耳を開くことはできないはずだろう。英語は[əəəəəəəə...]の連続の音世界と言える。英音も日音との対比・対照が手早く実感がもてるが、日音の[アカサタナハマヤラワ]は英音風には[əkəsətənəhəməjərəwə]のようになる。

また、スペイン語のほうの Las compañías vuelven a los EE. UU. en gran forma. ¡Felicidades, Alabama! には5つの母音[a, e, i, o, u]しかなく日本人にもはっきり、くっきり聞こえる音となる。ただし、[u]音には要注意で日音の「ウ」の響きとは違う。

言語音声に関しフランスの耳鼻咽喉科医であった A. Tomatis がフランス語原版の Tomatis, A. (1991) *Nous sommes tous nes polyglottes*. 『人間はみな語学の天才である』(訳)トマティス研究会 (1993)で、言語別による物理学的な音声の周波数帯(Hz)を提示した(p. 152)のでそれを次に示しておく (ここでは日本語の場合のものを独自に加えるとともに、言語の提示順を便宜上で若干入れ替える形で提示する)。

	(Hz)	125	250	500	1000	1500	2000	3000	4000		12000
日本語	:	_____									
アメリカ英語	:				_____						
イギリス英語	:						_____				
スペイン語	:	_____				_____					
フランス語	:	_____			_____						
イタリア語	:						_____				
ドイツ語	:						_____				
ロシア語	:								_____		

これで分かることは日本語音がきわめて低周波(low frequency)で他民族に修得が楽であること、そして英語はアメリカ英語音に比べきわめて高周波(high frequency)のイギリス英語音が幼児でない成人の日本人の聴覚脳では処理しにくいこと、またスペイン語やフランス語は日本語民族の耳に馴染みやすいが同じラテン系でもイタリア語は聴取が難しいことが分かる。さらに、ゲルマン系ドイツ語は日音の周波数に比較的近いことも分かる。同時に、ロシア語の修得が音声的にどの言語の修得も楽にする理屈も見えてくる。総合的にはスペイン語が音声的(phonetically)のみならず構造的(structurally)にも規則的であるし、日本人に最も馴染みやすいはずだろう。

そもそも日本人と英語の母語話者では呼吸法〔生理学的・化学的には酸素(O)を吸い二酸化炭素(CO₂)を吐く法 (cf. EP 本 III, pp.110-126)〕が違い、聞こえ方・響き方も違うはず。たとえば音楽で高ヘルツのモーツアルトの曲(Mozartean music)も日本語民族の聴覚脳には低く聴こえる(英語の母語話者が高周波音として聴く曲も日本人はなしくずしで低周波音として聴く)わけである〔このあたりは同上拙著、第三部、pp.222-223、また日本ベーシック・イングリッシュ協会研究紀要(2009) No.16 の拙稿「Basic English と音声：聴覚神経レベルからのアプローチ」で詳細に扱っておいた〕。

